

Library News

図書館だより No.39
Nara National College of Technology

1995年7月 奈良工業高等専門学校図書館発行



目次

巻頭言「年間20冊読破に期待」図書館長 中和田 武	1
特別寄稿「本と映画」 本校名誉教授 田中 富士男	2
卒業生からのメッセージ	3
心に残る一冊の本(その6)	8
図書館からのお知らせ	9
平成7年度読書感想文コンクールについて	10
新・図書館委員会スタート!	10
平成6年度図書館利用実況	11

(絵 東岡 智恵子)

巻頭言

「年間20冊読破に期待」

館長 中和田 武

最近、若者の読書ばなれがささやかれ、軽読書化がうんぬんされています。昨年中に本校学生が読んだ本を調査したところ、やはりその傾向が顕著に出ています。軽読書が良くないというのではなく、私はこのことを生涯読書の入門編として把え、軽読書から本格的な読書へと移行してくれることを願っています。劇画で見たことで心が動かされた時には、すぐに原作を読んでみてほしい。原作からは、より奥深いものを感じとることができるのではないかと考えます。私の青年期は、劇画がなかった時代なので、本を読むと作品が映画化されるのを待って、上映館にとび込んだものです。また洋画を見れば、すぐに原作を読むといった具合でした。確かに映像や劇画には、本と違った楽しさがありますが、本は映像では表現することのできない心理や想像、夢が広がり心に感動を与えてくれます。どうか、青春の日々に心を揺り動かされ、感動を覚える本や映像との出会いを追い求めてほしいと願っています。

私の本格的な本との出会いは、戦後10年を経過した頃でした。高校生になって学校の図書館をのぞいた時目に入った一冊の本、それは石坂洋次郎の作品「石中先生行状記」であります。私は東北地方津軽を舞台に描かれたこの作品にふれたとき、心が踊りまだ見ぬ津軽に思いを馳せ、夢が広がってゆく感動を覚えました。2年前青森で岩木山を仰いだとき、昨年蔵王に旅したとき、青春の中で感動した石坂文学の世界が目前に広がり、それはあたかも我心の故郷に辿り着いたなつかしさと温かさと安心感を同時に味わい、心にしみるものを感じ「わが青春、今だ健在なり」と、眠りかけている心を揺り動かされたことを思い出しています。一冊の本との出会いが、その人の人生を変えるとまで言われていますが、素晴らしい本との出会いは人生をより大きく飛躍させてくれるものだと感じます。私も石坂文学にふれることによって、青春を謳歌し夢多き人生を歩むことができたのではないかと考えています。

今から20数年前に担任をもったとき、HRで読書について話したことがあります。技術者として卒業する学生は、「専門バカ」にならないようにしてほしいと述べました。技術を生かすも殺すもそれは技術者、研究者の心にかかわる問題であろうと言いました。そのためには、高い教養を身につけ、心やさしい技術者、いたみのわかる技術者になってほしいと願ったものでした。それには、沢山の本を読むように、在学中に100冊の本を読破してほしいと言ったことがありました。その後、6、7年経って、名誉教授の小谷先生から卒業生の中に5年間で100冊読書した学生がいることを聞かされました。ただ1人ではありますが、実践してくれた学生がいたことに感激しました。このことが基となり本校の「読書100選」が小谷先生によって推せんされ、昨年細井先生によって「読書案内100選」と刷新されました。これは、学生諸君が将来、技術者としての人格形成に寄与できればとの願いが込められています。

青春の真只中、学生諸君は白紙の心を一色に染めるか、パステルカラーの多色にするかは、多読かどうかにかかっています。そのためには、あらゆる分野から選出された読書案内100選は、素晴らしいものと理解します。できるならばこの時期浅く広くをモットーに多読を願いたい。その中でこれはという本に出会い喜びを味わって下さい。

そこで、本年度の学生に期待する読書は、「年間20冊読破」をスローガンとしてかけ、図書委員会と共に啓蒙運動を展開することになりました。この機会に「多読表彰制度」を考えています。個人および学級として教養を身につけることに専念した学生を表彰することを検討しています。どうか本を読むことの楽しみをみつけて、生涯読書への道をつけてくれることを願っています。また、カウンターに座っている館長に、話しかけてくれることも期待しています。

見てから読むか、読んでから見るか。角川映画が全盛期に使ったキャッチ・フレーズである。映画の宣伝と文庫本の大量販売の二股かけた作戦である。

では、本を読んでから映画を見るか、映画を見てから本を読むのか、どちらが正しいのだろう。もちろん、どちらが正しいなど決まってははいない。私は映画をよく見るけれど、なるべくその前には原作本に手を着けないことにしている。でも時には先に本を読んでおいた方がよかったと思うこともある。例えば先日「王妃マルゴ」というフランス映画を見たのだが、これなどは原作を読んでいたらもっと興味を持てたに違いない。フランス史の知識のない私にはちょっと取っつきにくいところがあった。これなどは例外で大抵は映画を見ることを先行させた方がよい。

私が本格的に映画を見るようになったのは学生時代だが、その頃手近に読むことのできる映画書があったのは幸せだった。雑誌では、映画を見る前後にその映画に関する記事や評論をキネマ旬報で見ることが多かった。映画を見る前に映画評を読まないのはその頃からの私の原則である。ただ映画を見た後で映画評を読んで自分自身の見方を点検できた。またサドゥールの「世界映画史」と田中純一郎の「日本映画発達史」（全四巻、ただし現在は第五巻まで中公文庫で出ている）を読んだのも記憶に残る。サドゥールはフランスの映画史家だが、今世紀の世界の変動を背景に書かれたワイド・スプレッドな映画史は、私の眼を大きく開いてくれた。また、「日本映画史」は資料的側面の強い労作だが、これも日本の近・現代史の本と併せて長い時間をかけて少しづつ読んだものである。ただ残念なことは、今とは違って映画史上の名作を自分の目で見ることはできなかった。

今はビデオの時代、著名なクラシック・フィルムの多くがビデオ化されて見ようと思えば見ることができる。本校の図書館にも名作映画のビデオが多少ある。例えば「赤西蠣太」である。赤西蠣太という隠密（スパイ）が任務を終えて帰国しようとする。帰国を自然なものにするために一計を案じて醜男の彼が美女の腰元に恋文を送る。失恋して行方をくらます段取りだが、彼女は彼を愛してしまう。そこで苦勞するという喜劇である。ラストは結婚行進曲が流れて見る者はハッピーな気分になる。以前この映画を見せたらある女子学生がテレビで見る時代劇と違ってフレッシュだと評したが、その通りの映画である。これは小説の神様といわれた志賀直哉の同名の小説が原作である。十分もあれば読める短編だが、これなど原作と映画を比べてみるとおもしろい。映画が原作をどのように膨らませているか、原作が読者の判断に任しているところを映画は具体的な映像にしていることがわかるだろう。これなどは読んでから見ても見てから読んでも楽しいのではなからうか。ついでにドラマの背景になっている仙台伊達藩のお家騒動について何か読むのもよいだろう。この映画を監督したのは「お葬式」や「ミンボーの女」を作った伊丹十三監督の父君である伊丹万作だが、この人の戦争直後に書いた戦争責任についての文章はニユークなものである。また、この人の書いた脚本で稲垣浩監督が作った「無法松の一生」も日本映画史に残る名作である。こちらの原作は「富島松五郎伝」（岩下俊作著、現在も文庫版が出ている）。もちろん、原作本のない映画もたくさんあるし、映画化されない本の方がさらにたくさんあることは言うまでもない。どちらかという、私は原作本のないオリジナル脚本の映画の方が好みである。若い観客の中には長い原作を読む代わりに二時間程度の映画でお茶を濁す人が時々ある。トルストイの「戦争と平和」を読む代わりに映画を見ると言った類いである。これは映画の見方としては邪道、こんな人はストーリーにのみ関心があって映画には縁がないといえる。長い人類の歴史が生み出したすぐれた文学

作品はやはり本で読んでほしい。しかし、時には原作は大変つまらないのに、映画は立派と言うことも起こる。かつて作家の松本清張は映画「砂の器」を見て自分の原作より映画の方がずっと上だと言ったという。

さて皆さんはどうする。読んでから見るか、見てから読むか。

卒業生からのメッセージ

卒業にあたって

機械工学科 居谷多恵子

(大日本印刷株)

図書館司書さんからの依頼ということで図書館について一筆。私の5年間の高専生活において図書館の存在はとても大きい。学校に来ると必ず一度は図書館に顔を出していたような気がする。私はときどき静けさを求め図書館に行った。何か悩みがあるとき、落ちつかないとき、辛いときなどに誰にも邪魔されず本に囲まれていると不思議と心が落ちついた。決してたくさん本を読むほうではなく、くつろぐために読む本はもっぱら童話や簡単なストーリー物だったので、あまり図書館を活用しているほうではなかったが、こんな本好きがいてもいいではないか。本来の使用法とは違うだろうが図書館というのは本を借りる以外にもその空間を楽しむこともできるスペースだと思う。もちろん騒がしくするのはもってのほかだが私にとっては喫茶室のようなくつろげる空間なのだ。人と離れていたいとき、辛いときには何も聞かず受け入れてくれる。活字アレルギーの方も図書館＝本と考えず、図書館をもっと楽しんでほしいと思う。利用者が増えると蔵書も増え、より魅力的な図書館になるだろう。私が数年後学校を訪れて、図書館に顔を出したとき、現在と変わらず居心地のいい空間があることを期待したい。

・・・追記・・・

高専生活もう終わり。ただ奈良高専吹奏学部に入部したいためだけに入学してからもう5年、早かったなあ。学校では何より部を優先していたので成績は……だったけれど目標を貫けた5年間

に悔いはない。先生方にすればろくに勉強もせず部に明け暮れている私はあまり感心できない学生だったと思う。しかし、5年間通して勉学に打ち込めることが高専の特長であれば、5年間通して部もしくは夢に向かい突き進めるのも高専ならではのこと。もちろん夢にかまけて勉強をないがしろにするのはもってのほかだが、ひたすら点取り虫の5年間なんて私は嫌だ。悩むもよし、恋するもよし、ぼーっとする時間もまた必要。どんな5年間にするか、またそれを良かったと思えるかは自分次第なのだから、私は今、奈良高専こそ母校であると心から言える。

映画と高専祭と寮について

電子制御工学科 東郡慶爾

(中部電力株)

映画は素晴らしい。とにかく素晴らしい。映画には夢と希望があり、いろいろ世界が体験できます。人それぞれによって見方は異なるのだから、自分の感性でみればいいと思います。映画は娯楽かもしれませんが、僕は勉強だと思います。この5年間で映画館で100本目指してあと4本になり、図書館のも殆どみて、日頃から機会があるたびにビデオやLDもみるよう心がけています。今までの映画の中で良かった作品はたくさんありますが最も良かった作品は「シンドラのリスト」や「エデンの東」などです。図書館にはいいビデオやLDがそろっているので利用することをお勧めします。映画をみることによって、人間的に成長できると思います。昨日よりも今日。今日よりも明日。毎日毎日が積み重ねなのにこの5年間で勉強しなかったことを後悔しています。その反面、

したい事は人の倍以上はしてきたとは思いますが、学生の本分は第1に「勉学」なので太刀打ちできません。僕はバイトをせずにスポーツに励んできましたが、バイトをしてお金を溜める時間があるなら、読書することが大切だと思います。なぜもっと本を読まなかったのか。いろいろ読んだとは思いますが、偉大な兄に比べると劣ります。僕の兄は僕が1年の時の5年ですごい人でした。僕の目標であり大きな壁でしたが、そんな兄をもって幸せです。映画と本の大切さを教えてくれました。映画や本は、体全体で感じとらないといけないと思います。本は優しさや純粹さを教えてくれる身近な物です。2年の夏休みには1日1冊読み、正に乱読状態だった時もありましたが、日頃の態度に生かされているのかなあと思うと不安です。灰谷健次郎さんの作品は、わかりやすく心が暖まる作品だと思います。歴史小説が好きで「三国志」や「竜馬がゆく」などは感動した作品でした。僕の母はよく昼寝もしてますが、新聞を1日1時間から2時間は読んでいてその知識量にはすごいなあと感心させられます。僕は若いのにこの5年間をもっといろいろな事が出来なかったのか残念でした。

話は変わり、僕の高専生活での思い出はなんといっても高専祭で実行委員長をしたことでした。僕が実行委員長をしようと思ったのは、低学年から手伝っていたのと、1つ年下の寮生に相談すると「やりましょうよ」という声がかえってきたからです。あの時の高専祭は彼らの活躍なしでは出来ないものでした。感謝しています。あの時は「生きることがこんなにも素晴らしいものなのか」と本当に思いました。僕はこの4月から就職して社会に出ますが、当時は高専も1つの小さな社会だと思い、その中でいかに高専祭をどこまでもっていかなど考えてました。これから高専祭の幹部をしようと思う人は、人に裏切られようが何をされようが、自分の真心で心を打ち開けて人に接すればわかってもらえるはずです。わかってほしい時には何度も研究室に足を運ぶことが大事です。それぐらいの根性がないと信頼関係は生まれませ

ん。例えばイントレやアーチを組む時でも担当の人は終わっても真夜中に1本1本ボルトがしまっているかやベニアは釘打ちもれはないかなど調べに行く。そうすることにより安心感は生まれるわけです。僕は酒と焼飯とリンゴが大好きで後輩とイントレの上で飲んだことを一生忘れません。後夜祭の時にしてくれた胴上げも忘れません。いい後輩をもって幸せでした。本当にいい勉強になりました。ありがとう。

最後に寮ですが、多いに活用できたと思います。集団生活は大切な事です。それにしてもパワーがないですね。先生の文句を言う前に最低限の事ぐらいしなさい。それで文句を言っても通用しません。指導寮生をしていて一番の思い出は3回目に某I先生にみつかった大宴会でしょう。停寮になりましたが（先生あれは僕が首謀者です。許してね）、楽しかったです。あとは自分の思ってる事は、年下の人達に教えてやって下さい。今度遊びに行く時は、寮がビジネスホテルに変わってないことを祈ります。元気にがんばって下さい。

最後になりましたが、いろいろな思い出ができました。山ほどありますがやはり高専祭が1番の思い出です。幹部のみなさん。がんばって下さい。高専祭がなくなっていないことを祈ります。この5年間でいろいろな方にお世話になり、大変な迷惑をおかけしました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。高専生活を生かすも殺すも自分次第です。在校生のみなさん。前向きにがんばって下さい。

図書館の思い出

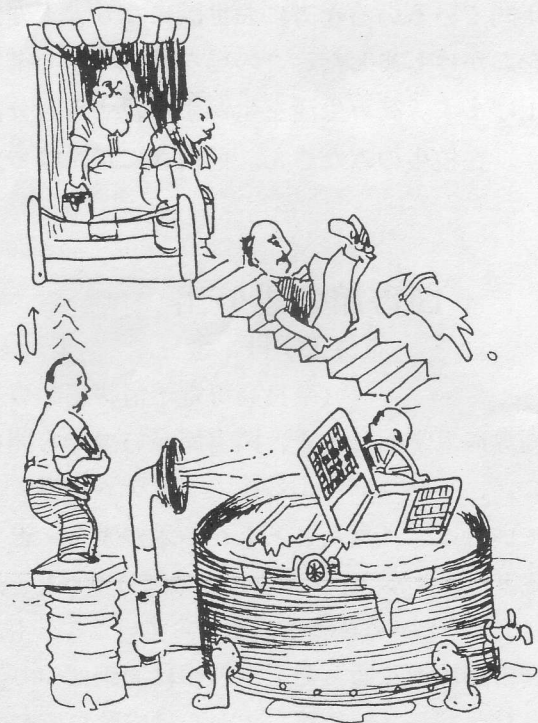
電気工学科 金 圭 史

(奈良高専電子情報工学専攻)

高専に入学したとき、図書館がいつでも開いていること、パソコンによる検索システムを導入し始めていたこと、見たこともない本がずらっと並んだ蔵書の多さ等、小・中学校とは随分違うなと思った。1年のときは図書委員もやっていたこともあって図書館によく通った。その頃は漫画ばかり読んでいたが……2年になってからは実験の資料を求

めたり、テストの参考に図書館へ行くようになった。図書館で実験のレポートを書いたり、テストの勉強をすることもあった。テスト前になると、普段は比較的閑散である図書館の席がうまり、学生の熱気であふれかえっていたのも覚えている。他にも、友人数人と話しているうさくなくなったので注意されたこともあるし、ビデオで録画したロードレースのテープを持ってきて図書館で見た思い出もある。図書館にある雑誌の記事を見て友人と議論する等、思い返せばたくさんの思い出があった。

しかしながら、僕はこれまで図書館であまり普通の本たとえば小説など読物を借りたことがない。何故なら、欲しいと思った本はできるだけ自分で入手しようとする性格でもあるし、活字というものの（小説以外にも色々）は、僕にとって漫画よりもめり込みが激しいので、本を読むと他のことが手つかずになってしまうからである。図書館では新しい本も割合早く置いてくれているので、専攻科に入ってあと2年、暇をみつけて図書館に行き今度は小説などを借りたり、また、LDやVTRといったものを見たりしたいものである。それが新しい思い出となって僕の心に残ることだろう。



「卒業してみても思ったこと」

情報工学科 大槻典正

(大阪大学基礎工学部)

僕はCAMPUSにも「卒業するにあたって」という内容で原稿を書かせていただきました。その中で僕は、「僕はこの春から大学に進学しますが、その大学では、やり残しがないように積極的に行動し、この高専の時と同様、充実した楽しい学校生活を送りたいと思っています。」と文章を締めくくりました。そして、現在はその言葉通りの、充実した楽しい生活を送っています。

しかし、さすが大学と言うべきでしょうか。授業の内容はかなり高度で、課題も毎日のように出されます。課題の無い日の方が珍しいくらいです。入学してから2カ月たった現在でも、授業の内容についていだけで必死で、復習をしなければ置き去りにされてしまうような状況です。とにかく、なかなか自分の時間というものを見つけることができません。おそらく、他大学に進学した友人や、企業に就職した友人たちも同じように、自分の時間を見つけることはなかなかできないでいると思います。（全員がそうとは言い切れませんが。）

このように毎日忙しく、本を読む暇もない生活をしていると、時間がありあまっていた高専時代にもっと本を読んでおけば良かったと思ってしまう。CAMPUSにも書きましたが、奈良高専という学校は、何をやるにしてもすばらしい環境にあります。そして、その何かをやるための時間もたっぷりあります。その時間をアルバイトに費やすのもかまいませんが、できればスポーツや読書などに使ってほしいものです。みなさんの年代は、スポーツをするには最適の年代であるわけですが、同様に読書をするにも最適の年代でもあります。みなさんの年代は、気力や感受性が一番充実している時期ですから、読書によって得られるものが一番多いと思います。進学や就職をすると、自分の読書をする時間がほとんど無くなってしまいます。ぜひ、時間にゆとりのある高専時代に、一冊でも多くの本を読んでおくことをお勧めします。

次に大学の図書館について少し書こうと思います。僕の通っている大学には、大学付属図書館と各学部ごとに学部図書館があります。さすがというべきでしょうか。学部図書館に置いてある本は難しい専門書や学会誌ばかりで、しかも洋書が半数近くを占めています。そして、付属図書館は規模がかなり大きく、書籍の数も並大抵ではありません。各分野の専門書も学部図書館に匹敵するほどの量があり、数学など一般教科の参考書も数多くあります。このように周りに参考書が山のようになり、しかも図書館には自習用の机が大量にあり、誰もしゃべらず本当に静かですから、勉強するには最高の環境なのです。僕も課題をやるために、毎日この付属図書館を利用しています。

さいわい、奈良高専の図書館にも自習用机があり、参考書もかなりたくさんあるのですから、みなさんも積極的に図書館を利用しましょう。みんなが協力し合ってしゃべらないようにするだけで、勉強するには最高の環境が作りだせるはずですよ。そしてその最高の環境の図書館で頑張って勉強し、いい成績をとって、いい大学に編入しましょう。

図書館の利用法

化学工学科 甲 斐 敏 雅

(東京農工大学工学部)

卒業研究に忙しい頃、図書館について書いてくれないかと言われたので、5年間どの様に利用したかを書こうと思う。

図書館は1年の頃から利用していた。1年や2年の頃は、もっぱら、図書館にある漫画ばかりみていた(たまに、実験の報告書を書くときに専門の本をみていた)が、3年、4年、5年と進む内に専門の本ばかりのところによるようになった。実験の報告書は勿論のこと勉強や5年では卒業研究の参考にと図書館によく本を捜しに出かけていた(化学だけでなく、機械や電気、情報の本の所にも)。

本を調べている時、本を1冊とってパラパラとめくっていると、誰が書いたかわからないがあるところに線が引いてあることがあり、そこが自分

の調べたいところだったりすることがある。そういうときは、線を引いてくれた人に感謝してそのまま書くというのがベストである。

しかし、図書館は勉強をするところだけではない。一時の休息の場でもあるのだ。授業やクラブなどに疲れたときこそ、図書館を訪れ、静かに本を読んで心の休息を取るのも必要である。

活字離れが進んでいるといわれる今日、せめて、学校にある図書館を勉強以外のときにも利用しておく本を読んでいく内に活字にもなれ、わかりにくい漢字なども覚えることができ、自分が持っている語彙をもっと増やすことが可能になる。だから、試験前や報告書提出前になってだけ利用するのではなく、普段から利用しておくのを勧めします。

専攻科卒業生からも一言

「私と図書館」

桐 島 俊 之

(奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科)

新たに生成されゆく莫大な量の情報、一方その影で埋もれゆく情報。現在、私達は情報社会を生きています。現在インターネットが大変注目されていますが、GUIの優れた(使いやすい)ソフトウェアが出回ってきたことも重なって、全世界規模でそのユーザ数を増やしつつあります。コンピュータのコスト・パフォーマンス、さらにはソフトウェアの機能や操作性は、10年前とはまさに「月とスポン」と言えるほどに向上しています。そう遠くない未来に日本でもマルチメディア・情報通信関連機器は、現在の家庭用TVゲーム機と同様に一般家庭に普及していくことになりそうです。

ところで、情報の伝達には主に言語が用いられますが、この小さな地球に何と多くの言語があることでしょうか！インターネットには世界中(一部の地域を除く)の人々が参加する可能性がありますが、英文情報の割合が圧倒的に多いので、英語の学習は今後益々、受験対策ではなく異文化間コミュニケーションのための道具としての本来の色合いが強まるでしょう。国内のニュースグループ

寄贈図書リスト

だけでも十分楽しめますが、それではインターネットの魅力が半減してしまいます。とにかく「高専生は英語が苦手」等という従来の悪しき伝統(?)を突き崩す必要があります。従来の枠を越えた発想が求められる時代です。

現在、関西文化学術研究都市では次世代の情報通信をにらんだ実験・研究が盛んに行なわれています。学研都市の一角にある私の通っている大学院でも、平成7年度から電子図書館の建設が始まりました。このプロジェクトにより、学内外に張り巡らされた高速・大容量の光ファイバ網を利用して、ビデオ・オン・ダイヤモンドや電子論文の検索・閲覧など、従来の図書館ではできなかった種々のサービスを受けることが可能となる予定です。21世紀への鼓動が確かに始動しています。

いくらテクノロジーが進化しても人間の主役の座は脅かされることはありません。恐れるべきは、価値観の揺らいだ人間の心がテクノロジーに呑み込まれることです。バランスのとれた読書を通じて自分流価値観を培いましょう。奈良高専の図書館には大変広範な分野の書籍があります。そのような環境で、専門書ばかり読んでるのは本当にもったいない。雑誌や新聞ばかり読んでいてももったいない。たまには、人文系の書物に目を通してみましょう。きっと現在のあなたに何らかの刺激を与える本があるはずです。あっそうそう、頭にカビが移らないよう本の賞味期限にはくれぐれも注意しましょう。

最後に一言お礼を。電気工学科での5年間、専攻科電子情報工学専攻での2年間、図書館並びに図書係の方々には本当にお世話になりました。心残りが一つあります。それは、図書館のLDの映画をもっとたくさん見ておけば良かったということです。皆さん、私の分も見ておいて下さい。

(書名)	(寄贈者名)
○わが友 本田宗一郎	本校学生 櫻井君
○ウルトラマン研究序説	〃
○行政手続法をいかに活用するか	経済広報センター
○移動通信システムガイド'95 陸上移動通信のすべて	移動無線センター
○移動通信システム開発ビジョン 移動通信の将来像	〃
○新幹線 のぞみ白書	東海旅客鉄道
○日本再生の処方箋 日本の進路研究	経済広報センター
○ヨーロッパ科学史の旅 NHKブックス(カラー版) C36	本校教官 大矢氏
○プルトニウム	日本原子力振興財団
○化学計算問題の解き方	本校学生 中 君
○熱力学の基礎 だれでもわかる解説と演習	〃 〃
○水力学・流体力学 機械工学基礎講座6	〃 〃
○日本の大学 この国の若者はこんなんです!	〃 〃
○OL10年やりました	〃 〃
○ひつじが丘 講談社文庫	本校学生 村井さん
○スポーツ史講義	本校教官 松井 氏
○必ずわかるC言語 Cによる実践的プログラミングの手引き	本校教官 土井 氏
○パソコンによる計測・制御の実践入門	〃 〃

(平成6年2月～平成7年5月)

心に残る一冊の本

—〈あなたにも薦めたい〉— (その6)

『日本語の作文技術』

本田勝一著 (朝日文庫)

機械工学科 矢尾匡永

読書は好きだが、小学生の頃から読書感想文には苦勞した。一冊の本について、他の人に何かを訴えかけ、心を揺さぶることのできる文章を書くのは今でも苦手である。そのような訳で、この一文を書くのにも苦心している。

私の読書のジャンルは、SF小説、推理小説、歴史小説、ノンフィクション、純文学と多岐にわたっている。娯楽のために本を読むことが多く、持ち運びの便利さから文庫本ばかりを購入し、自宅だけではなく研究室にも読了した本を沢山置いている。SF小説の文庫本等は、増刷しない場合が多く、手に入りにくいものもあり、お探しの本が我が研究室で見つかることがあるかも知れない。

ところで、専門教科の教官をやっている、学生諸君の実験レポートや卒業論文を読み、また、就職・進学志望動機の記事を見るとき、私でさえ、それらがひどい日本語だと思ふことがある。よく読書をしている人が判り難い文章を書いている場合も散見される。私なりに、これにはいくつかの原因があると思っている。その一つは、日本語以前の問題で、本人の思考が整理されていないために、自分自身で言いたいことが的確に掴みきれない場合である。次に多いのが主語と述語の不一致等の作文技術を知らないことによるものであると思う。後者の原因の対処法として、一冊の本を読むことを薦めたい。本の名は「日本語の作文技術」(本田勝一著、朝日文庫だったと思う)である。この本に私は、レポートを書くのに苦勞していた学生時代に巡り会った。この本を読んで、分かりやすい文章を書くのにどうすればよいかがよく判った気がした。以来、卒業生にはこの本を読むことを薦めている。ただし、一朝一夕に文章を書くのが上手になると言うわけではない。分かりやすい文章を書くにはどの方向に努力すればよいかをこの本は示しているのである。

最後に、本田勝一の作品で、「殺す側の論理」と「殺される側の論理」は対になった作品で、ぜひ若い頃に読んで欲しいと常々思っている作品である。

『アレクサンダー』

ペーター・バム著 松谷健二訳 (築摩書房)

電気工学科 井村榮仁

この本は、二千数百年にわたって論争の的にされた彼とその父フィリップII世との間の愛、憎悪そして葛藤を軸にマケドニア王家の盛衰を平易に記述している。読んでいるうちに、我が国における武田信玄とその父信虎との関係を連想させるが、スケールの点で問題にならない。フィリップ自身の性格は、豪胆・不信かつ粗野であったが、息子には教育熱心でアレクサンダーをアテネに留学させており、彼の為にアリストテレスを家庭教師としてマケドニアに招へいもしている。父母が不仲であったので、王位継承に暗雲が漂い、例によって血生臭い家督争いを経て、父フィリップの死をもって彼が王位に就く。

この父の死に関し、母オリュピアスが一枚絡んでいたらしい。武人としてはペルシャをじゅうりんし、インドを侵したけれども、一方でホメロスのイリアッドを戦場に携えていく教養人としての彼は、

カスピ海が内海であることを実証させ、また測量隊を組織して全行程の正確な距離を計測させていた。

その上周知のヘレニズム文化の創始者でもあった。家庭的には恵まれなかったが、彼の部下は伝説の英雄達のように忠実であったので、若干30才にしてヨーロッパからアジアにまたがる一大帝国を、しかもごく短期間のうちに樹立できた。しかし、その崩壊も彼の死とともにあまりに急激であった。この大帝国を誰に任せるかという部下達の問いに、臨終の床で呟いた「強い者に」という一言が心に残る。

分裂してできたヘレニズム3国のうち、エジプトを支配したプトレマイオス王は主人アレキサンダーの記録を残した。世界で唯一の「王者が書いた、王者の伝記」なのである。まさしく、大王であった。

くしくも、プトレマイオス王朝の最後の女王がああクレオパトラ（大王の妹の名もクレオパトラ）であるのも歴史の皮肉と言うべきであろうか？一度は父を越えたが、結果的には父の国まで失った。

耐久から栄光そして滅亡という、世の中の普遍原理が強烈に刻まれている。

『遙かなるケンブリッジ』

藤原正彦著（新潮文庫）

情報工学科 下村満子

副題に「一数学者のイギリス」とあるように、数学者である著者が、在外研究員として一年間イギリスのケンブリッジ大学に滞在したときの事ごとを描いたエッセイである。「一応ノーベル賞はもらっている」というような超エリート研究者がごろごろいるケンブリッジ、そこで毎日朝から夕方まで、一心不乱に数学を考え続け、「数カ月かかって証明した定理でも、誰か先に証明した人がいればただの紙屑」、「そんなことはもう知っている、と言われたらどうしよう」という緊張や恐怖と闘いながら、天才秀才達の前で講演する。自分が研究に打ち込んでいる間に、奥さんは孤独に悩み、子供は学校で人種差別の標的にされる。研究者としての実力が試されるときに気持ちのたかぶり、認められる喜び、それをとりまく家族の悩みを、やや硬質だが読みやすい筆致で描いている。

また研究に関することだけでなく、イギリス文化やその中でも独特なケンブリッジやオックスフォードの風土、悠々とやせがまんのような生活をしているイギリス人のことなどが、数学者の視点からいきいきと描かれている。江戸時代に作られた家に住んでいることなど全く珍しくない。とにもかくにも食事はまずい。お風呂のお湯もすぐに水に変わってしまう。ケンブリッジの教官達もまた一風変わっている。何度聞いてもよくわからない大学のシステム、アメリカ人とイギリス人の軋轢、ケンブリッジとオックスフォードの対抗心、教官達のスノッパなディナー風景などなど……。イギリスに興味のある人、数学に興味のある人、研究に興味のある人、様々なレベルで面白く読める一冊である。

ちなみに、ここ2、3年日本ではイギリスブームで、イギリス文化に関する色々な本が出版されている。中でも林望の「イギリスはおいしい」「イギリスは愉快だ」などの一連のエッセイは読みやすい。「遙かなるケンブリッジ」とは筆者同士の共通点も多く、読み比べてみるのも一興であろう。

図書館からのお知らせ

夏季休業中の図書館の開館時間等は以下のようになります。

開館時間	平日	8時30分～17時	休館日	8月10日(木)～8月17日(木)
	土曜日	夏季休業中休館	貸出冊数	6冊(7月7日より)

長い夏季休業中、大いに読書に励んで下さい。

平成7年度読書感想文コンクールについて

恒例の夏休み読書感想文コンクールを、今年度も図書館委員会と国語科との共催で行います。先生方からは以下の19冊が「参考図書」として推薦されました。この他にも興味のある本があれば、自由に選んでも構いません。3年生以上は自由参加ですが、積極的に多数の応募があることを期待します。

☆文学作品……オモニ太平記（小田実）朝日文芸文庫／項羽と劉邦（司馬遼太郎）新潮文庫／恍惚の人（有吉佐和子）新潮文庫／こゝろ（夏目漱石）新潮文庫・他／殉国—陸軍二等兵比嘉真一（吉村昭）文春文庫・他／新橋烏森口青春篇（椎名誠）新潮文庫／スローカーブを、もう一球（山際淳司）角川文庫／誰のために愛するか（曾野綾子）角川文庫／日本沈没（小松左京）光文社文庫／氷点（三浦綾子）角川文庫

☆文化作品以外……あいまいな日本の私（大江健三郎）岩波新書／円周率 π の不思議—アルキメデスからコンピュータまで（堀場芳数）講談社ブルーバックス／きけ、わだつみのこえ 岩波文庫・他／技術大国・日本の未来（西沢潤一）朝日文庫／子育ての社会学（石川憲彦）朝日文庫／俵万智のハイテク日記（俵万智）朝日文芸文庫／南京事件（秦郁彦）中公新書／ひめゆりの塔（石野径一郎）旺文社文庫／部落の女医（小林綾）岩波新書

平成7年度（1995年度）・図書館委員会スタート

本年度の図書館委員会と学生図書委員会のメンバー及び役割分担が次のように決まりました。また、事務部の方でも異動がありましたのであわせて報告しておきます。

委員会では、今年度の指導重点目標を昨年度に引き続き、「読書生活の充実」—読書案内100選年間20冊読破—と定めました。本の嫌いな人にとってみれば「20冊なんて読めない！」とってしまうかも知れませんが、昼休みや放課後には当番の先生方も来られていますから、その方々に気軽に話しかけるのを目当てに来てもらっても構いません。とにかく図書館に来て、本と触れ合う時間を多く持つよう努力してみてください。

本の好きな人へのお知らせです。今年も昨年と同様、ブックハンティングを2回行う予定です。自分の欲しいと思っている本があったら、すぐにでも各クラスの学生図書委員に伝えておいて下さい。学生図書委員の人たちは、ご苦労様ですが、ブックハンティング前までに、クラスの意見をしっかりまとめておいて下さい。

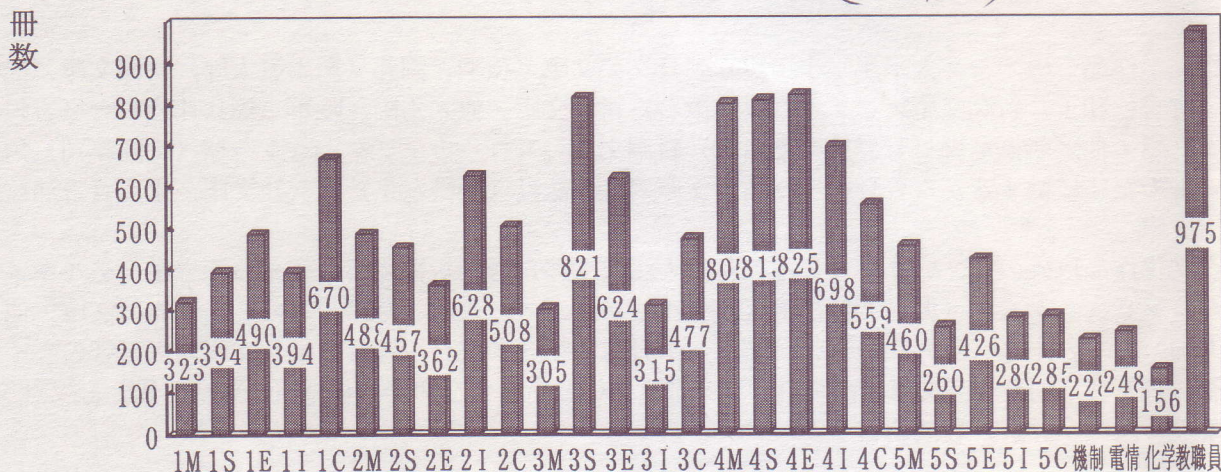
図書館委員会			学生図書委員会				
館長：中和田 部長：井村・阪部・大植 (事務部：阪井・福井・清水)			委員長：4 E 山本 副委員長：3 I 橋本				
図書部会	視聴覚部会	研究紀要部会	M	S	E	I	C
井村・福嶋 勢田・岩井 矢尾・沖田 山内・工藤 石丸	阪部 山内 鈴木 石丸	大植・福嶋 岩井・沖田 山内・鈴木	1 池島 2 中川 3 板坂 4 立上 5 首頭・加藤	玉木 佛明 金井 岩崎 村井	池澤 林 林 山本 園田	中川 尾本 橋本 西島 山本	田中・吉野 水谷 村島・有吉 田村 小菅

図書館委員担当曜日					学生図書委員貸出当番表				
月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
阪井 井村	沖田 山内	勢田 岩井 鈴木	工藤 石丸	矢尾 大植	田村 中川(2M)	水谷 村井	池島 中川(1I)	板坂 立上	橋本 林(3E)

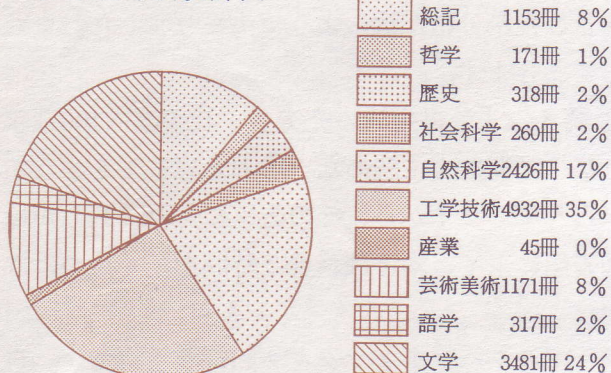
平成6年度図書館利用状況

クラス別統計表

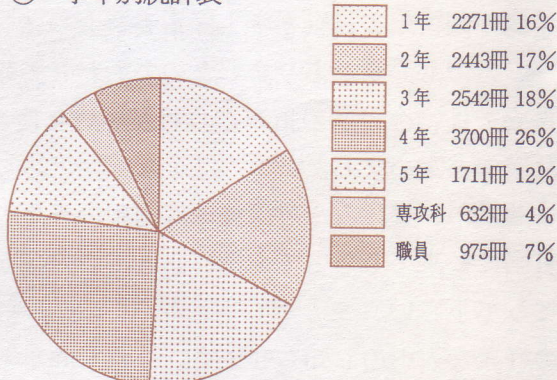
倉下 雅之
(15,407冊) ■ 年間貸出数



○ 分類番号別統計表



○ 学年別統計表



奈良高専貸出ベストテン ('94.4.1. ~ '95.3.31)

1位	詳解流体工学演習	吉野 章男他	共立出版
2位	もものかんづめ	さくら ももこ	集英社
3位	24人のピリー・ミリガン	キイス	早川書房
4位	銀河英雄伝説	田中 芳樹	徳間書店
5位	アマリタ	吉本 ばなな	福武書店
6位	IC論理回路入門	西野 聡	CQ出版
6位	デジタル回路の考え方	清水 賢資	オーム社
6位	創竜伝	田中 芳樹	講談社
9位	マディソン郡の橋	ウォラー, R. J	飛鳥新社
9位	続・マーフィーの法則	現代日本の知性 日本マーフィー普及会	アスキー出版

☆漫画本は除いてます。

☆この他にも9位はたくさんありました。

編 集 後 記

◇ 特別寄稿では、初代図書館長の田中先生に“本を読んでから映画を見るか、映画を見てから本を読むか”を、また巻頭言では、新図書館長の中和田先生に“年間20冊読破と多読表彰制度の提案”について書いて頂きました。

さらに、多くの卒業生からも心のこもったメッセージを頂きました。好評の「心に残る一冊の本」も第6回を数えることになりました。今回も3人の先生にあなたにも薦めたい一冊の本についての紹介をして頂きました。

ご多忙のところ、快くご執筆を頂いた方々に感謝致します。

今後とも、奈良高専図書館の発展・充実のためにご支援をお願いします。
(委員一同)